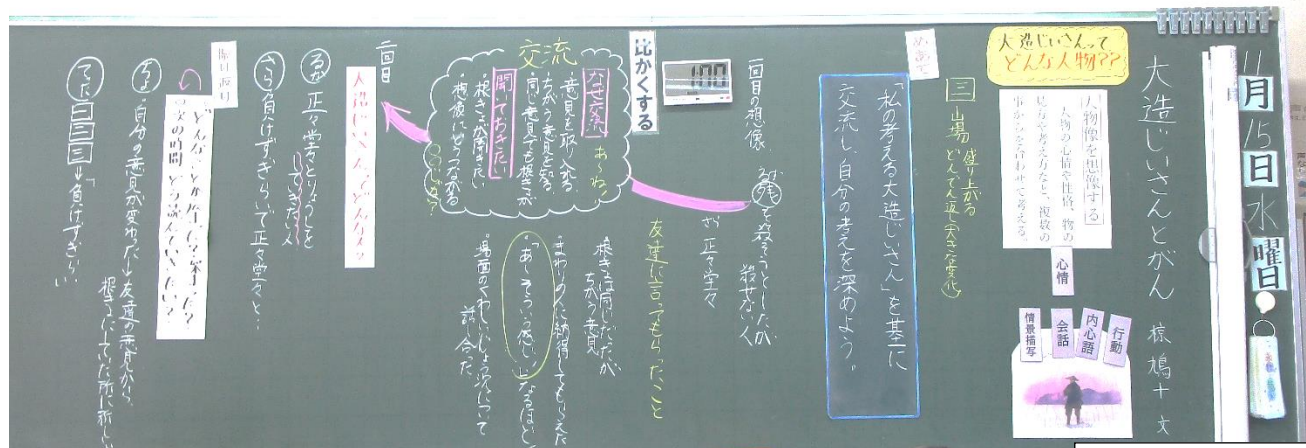


11月15日(水)は、今津先生による国語科の研究授業でした。本単元は、物語文に描かれる人物の行動、会話、内心語、情景描写などをもとに人物像を想像し、それを交流しながら自分が考える人物像をまとめる学習を行いました。本時は、山場における主人公の行動、会話、情景描写などから考えた人物像を友達と叙述を根拠に交流して深め、再度人物像について考える学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「主人公の魅力を伝えよう」 **全7時間**
学習材 「大造じいさんとがん」(東京書籍) **5年2組 今津 好智 先生**
本時の目標：叙述を根拠にして、山場から見える大造じいさんの人物像を想像することができる。
本時における見方・考え方：行動・会話・内心語・情景描写に着目して心情や人物像についての想像を広めている。



本時の板書4/7



自分が考える人物像を叙述をもとにグループ交流しています。

グループ交流後、人物像について、もう一度考えています。

今津先生による授業のリフレクション

根拠を基にして想像したことを語れることを目指し、単元構想を創りました。交流の質や深さの点ではたくさんの課題は見えましたが、楽しみながら友達と交流している姿に成長を感じることもできました。協議の中でいただいた、多様な視点でダイナミックに読み進める授業は、教師の目線、児童の目線両方から見ても楽しく読み深められそうだったので、今後チャレンジしたいと思います。チームで何度も教材研究をしていただいたことで教材解釈が深まったり、読みの授業を創るための視点や留意点を知れたり、たくさんの力を付けることができました。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 自分の考えを深めるために、グループで交流するという設定場面がよかった。
 - 子ども達の対話量を増やすためのグループ活動、子ども達それぞれの考えを可視化するためのホワイトボードの活用など工夫がされていた。
 - グループでの交流時間が長く設定されており、子ども達が叙述をもとにそれぞれの人物像について交流ができていた。
 - 山場の場面だけでなく、これまでの場面を踏まえた人物像について発言する児童がみられた。
 - ▼物語の全体や主人公の心情にせまる読み、根拠をもとに自分の考えを話したり、友達に問い返したりする等、読む力、話す・話し合う力が不十分なところがある。
 - 全文を通した読み、心情曲線などを用いた読みを展開していくとよいのではないか。
 - 話し合う際に、事前に友達に聞きたいことを書いたり、もったりしておくとういのではないか。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - 単元を通して「人物像を想像すること」を子どもたちが問いとしてもち、どのような学習を行っていくのか見通しをもって進めることができていた。
 - 本時の学習において、自分の考えを深めるために、交流することの意義やよさを確認して子ども達に課題をもたせていたことがよかった。
- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - 何に着目して交流するのか、ポイントを押さえ、全体で共有することで交流の視点を明確にしていたことがよかった。
 - 子ども達一人一人に人物像について考えをもたせておくことが、交流へつながっていた。
 - 子ども達の交流、対話の様子をみて、再度視点を確認する等、中間指導を入れたことにより子ども同士の交流が広がることにつながった。
 - ▼子ども達が、叙述を根拠とした友達の考えと比較して考えられていたか。自分の考えを深めるまでには至らなかったのではないか。
 - ▼グループによって、話し合うことに差がみられた。
 - 本時の山場の場面は長いので、叙述をもとに人物の行動や心情を捉える読み、その行動や心情から人物像を想像する読みと2時間に分けて学習してもよかったのではないか。
 - 個人思考からグループ思考だけでなく、教師と子どもでやり取りしながら、全体思考をすることも必要ではないか。
 - 発問の仕方によって、子どもの思考も変わるため、「どんなことを言ってもらった?」「自分の考えが深まった意見はどんな意見?」など発問を工夫する必要があるのではないか。

